

特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴

代表者	日向 進
所在地	〒625-0080 京都府舞鶴市字北吸 1039-2(舞鶴市政記念館内)
設立年月日	2000年08月21日
URL	http://www.redbrick.jp/

【設立趣旨】

●舞鶴赤れんが倉庫群

舞鶴市北吸地区に残る明治・大正・昭和初期につくられた赤煉瓦建造物を後世に引き継ぎ、それを生かしたまちづくりを目的に活動しています。昭和63年(1988)に結成した「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」(市職員80名参加)を母体に活動をスタート。平成2年に「まいづる建築探偵団」が発足、市内の赤煉瓦建物の調査・研究を



図1. 舞鶴赤れんが倉庫群

行い、神崎地区でホフマン式輪環窯(国内4例現存)を発見するなど大きな成果を上げました。平成3年(1991)には市民組織「赤煉瓦倶楽部舞鶴」(会員150名)が発足、赤煉瓦建造物などの保存活用に取り組む国内の団体・組織とネットワーク化を図るなど、赤煉瓦を生かしたまちづくりを支援する活動も併せて展開し、平成12年(2000)にはNPOとして認証されました。現在、「舞鶴市政記念館」と「まいづる智恵蔵」(共に国の重要文化財)の指定管理者として管理運営にもあたっています。役員は理事15名、監事2名で、自称赤煉瓦博士をはじめ教授、準教授、講師、研究者ら個人会員95名、法人会員3法人(特別会員37名)で構成されています。

【沿革】

●赤れんがのまち舞鶴

明治34年(1901)舞鶴海軍鎮守府が開庁、日本で4番目、日本海側では初めての舞鶴軍港が開港されました。初代司令長官は東郷平八郎(当時海軍中将)。大正11年(1922)のワシントン軍縮会議による舞鶴鎮守府廃止という危機にも直面しましたが、昭和20年(1945)の敗戦まで「海軍のまち」として特異な発展をしました。現在、市内には旧海軍が建設したものを中心に多くの赤煉瓦建造物が現存し、「赤れんがのまち」とも言われています。市役所周辺の国道沿いには12棟の旧海軍所属の赤煉瓦倉庫が残っており、また湾内のユニバーサル造船には旧海軍工廠の煉瓦建物が26件も残されています。舞鶴湾口周辺の山頂付近5カ所には旧陸軍の堡壘や砲台が残されているほか、水道施設、JR舞鶴線のトンネル(5件)、橋(31件)など市内では130件にのぼる赤煉瓦建造物が確認されています。平成20年(2008)には改修して保存活用する「赤れんが博物館」「舞鶴市政記念館」「まいづる智恵蔵」を含め、北吸6号倉庫、同7号倉庫など7棟(附1棟)が国の重要文化財に指定されています。



図2. 映画「男たちの大和」のロケ地にもなった赤れんが倉庫群

【活動目的】

●舞鶴市政記念館(国の重要文化財)

NPOの事務局を置く市政記念館は、旧海軍の兵器廠倉庫(砲銃庫)として明治35年(1902)に建設されました。その後、明治37年(1904)に軍港引込線が開通して倉庫内まで線路を引き込み、貨車による物資の運搬が行われていました。戦後は市庁舎の一部として使用されていましたが、平成6年(1994)に「舞鶴市政記念館」として改修され、芸術・文化の交流の場として生まれ変わりました。館内は、ホール、会議室、市民サロン(喫茶)、展示コーナーなどがあり、とくに200名収容のホールは美術展をはじめ音楽会、映画会、品評会、頒布会など幅広く利用されています。平成18年(2006)から指定管理者として運営管理にあたっています。

●まいづる智恵蔵(国の重要文化財)

市政記念館西隣の智恵蔵は、記念館と同じ明治35年(1902)に弾丸庫並小銃庫(砲銃庫)として建設されました。館内は鉄道レール、木製扉口、階段、ガラス窓など当時の姿をとどめています。平成19年(2007)、先人の智恵を継承し、今を生きる私たちの智恵を育む場「まいづる智恵蔵」としてオープンしました。企画展示室および赤れんが回廊では美術展覧会などを開催するほか、縄文丸木展示エリア、赤れんが倉庫復元エリア(鉄道ジオラマ)、宝もの大学エリア、歴史文化交流エリア、糸井文庫浮世絵展示エリアなどでは市民有志がサポーター部会をつくり各種ワークショップを企画し、市民参加の文化・芸術交流活動を進めています。こちらは平成19年(2007)から指定管理者として管理運営にあたっています。

【活動内容】

●舞鶴赤煉瓦ジャズ祭

夏の恒例イベントとして全国から多くのジャズファンを集めています。今年19回目を迎えたジャズ祭には国内外から5バンドが出演しました。今回は芸術家交換事業で交流のあったドイツ・ロストック市からトリオを招いて華を添えました。今年も「市政記念館」「まいづる智恵蔵」「北吸7号館」の赤れんが倉庫三会場は夜遅くまで熱気に包まれました。平成3年(1991)にジャズピアニストの山下洋輔さんとの出会いをきっかけに始まったジャズ祭は、来年20回目という記念祭を迎えようとしています。毎回、赤煉瓦倶楽部舞鶴会員有志が中心となり、実行委員会を組織して開催しています。



図3. 舞鶴赤煉瓦ジャズ祭2009(市政記念館) TOMMYクインテット

●神崎ホフマン式輪窯(国登録有形文化財)

平成2年(1990)、赤煉瓦の調査を行う中で市内神崎地区にある窯がホフマン式輪窯であることを確認できたことが、赤煉瓦を生かしたまちづくりの活動に大きな弾みをつけました。まちづくりを進めるうえでシンボルとしてなくてはならない貴重な財産であると考え、改修・保存の調査・研究を進めてきました。ホフマン窯はドイツ人のフリードリヒ・ホフマン(1818-1900)が1858年に特許を得た焼成窯で、内部を一室ごとに区切り、余熱を隣室に伝えながら焼成帯を順に移動し、連続焼成を可能にした画期的な窯ということがわかりました。平成14年(2002)、舞鶴に残る数多くの赤煉瓦建造物を保存しようと「赤煉瓦保存基金」を創設し、募金活動にも取り組んでいます。

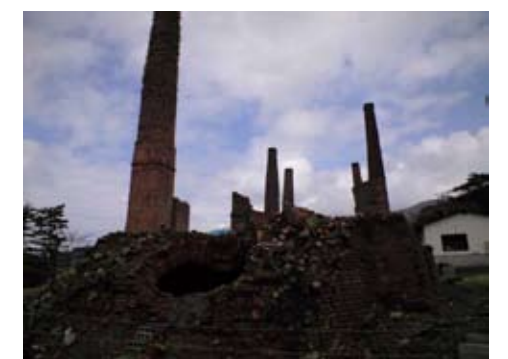


図4. 神崎煉瓦ホフマン式輪窯

【活動上の課題と今後の展望】

●舞鶴赤れんがアートスクール構想

赤れんが倉庫群の保存・活用について、舞鶴市では活用検討委員会を設置して「舞鶴赤れんがアートスクール構想」を策定しています。「新しいアイデアは古い建物から生まれる」というジェイコブスの言葉にあるように、100年の歴史を刻んできた赤れんが倉庫の中で、自分たちで考え、新しいものを創りだしていくというスクールの機能を果たせたいとの想いが込められています。アートの語源には「美術・芸術」はもとより「人間が創りだしていくすべてのもの」という考えをもとに、赤れんが倉庫群の活用にあたっては「芸術文化の拠点」「子どもの創造性を育む」「近代化の歩みを伝える」「豊かな食文化を楽しむ」の4つの機能を視野に入れています。NPO赤煉瓦倶楽部舞鶴では、「賑わいの創出」をテーマに、赤れんが倉庫群の具体的な活用方策について、企画・実施・検証活動を進めています。



図5. 北吸7号倉庫内部